

とがち帯広FC

静岡市長杯

第42回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆1次リーグ

第1試合 とがち帯広FC 2-0 バディサッカークラブ江東（東京都）

第2試合 とがち帯広FC 2-0 アスベガス生駒フットボールクラブ（奈良県）

第3試合 とがち帯広FC 6-1 SALFAS oRs（静岡県）

3勝で1位リーグへ

☆1位リーグ

第1試合 とがち帯広FC 1-0 横浜ジュニオールサッカークラブ（神奈川県）

第2試合 とがち帯広FC 2-1 バディーSC（神奈川県）

☆決勝戦

とがち帯広FC 2-1 清水トレセンU-12（静岡県）

参加24チーム中 第1位 全国制覇!

2014. 12. 20~21

清水ナショナルトレーニングセンター他

報告者 十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

快挙達成！ 「チーム十勝」がつかんだ全国制覇！

十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

この清水チャンピオンズカップは、全国各地の大会で優秀な成績を収めたチームが、サッカーどころの清水に集い、その年の真のチャンピオンを目指す大会として定着している名誉と権威のある大会です。我々「とちかち帯広FC」は、大会実行委員会の推薦も含めて今回で12年連続の出場となりました。

十勝トレセンU12のメンバーは、11月下旬まで白樺学園のグラウンドもお借りしながら屋外でのトレーニングを継続的に続けてきましたが、その後は室内でのトレーニングとなり、広いピッチでのフィジカル面やコンタクトプレー、また11人制サッカーのゲーム感覚、試合運びなど、不安と期待が入り混じる中での大会参加となりました。

さて、大会の結果ですが、トレセンの前身である選抜チームとしての活動を始めてから30年の時を経て、十勝の子どもたちが全国制覇という快挙を成し遂げてくれました。

今回の大会に参加した選手20名のがんばりはもちろんですが、十勝の少年サッカーの仲間たち、たくさんのOB選手、各チームで熱心にご指導いただいている指導者の皆さんのお力、十勝地区サッカー協会、十勝少年サッカー連盟のご支援、まさに「チーム十勝」「オール十勝」の勝利だと思っています。

全日本少年サッカー大会で全国3位になってから約10年、関係者の皆さんのご理解とご支援をいただきながら地道に取り組んできたことがこの結果につながったものと思います。が、まさかこの日が来るとは！というのが正直な気持ちです。

近そうで遠かった全国のトップレベル。まだまだ追いついたとは思っていません。この成績に満足することなく、おごることなく、十勝の子どもたちと、十勝の指導者の皆さんと共に新たな一步を踏み出していきたいと思っています。

今回一番強く感じたことは、十勝の子どもたちの「個の力」が全国でも十分に通用したということです。我々十勝トレセンが、ここ数年課題として取り組んできた個の育成が、各チームでの指導の充実もあり、少しずつ成果となって表れてきたものと思います。

なお、今年の大会も、清水の船越サッカー少年団代表の鈴木さん、旅館日本閣さんはじめ、多くの関係者の方々にたいへんあたたかい歓迎を受け、充実した遠征となりました。

少年トレセンの最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合ができるこの大会は、我々にとって本当に大きな財産となっています。ここで得た経験、熱い思いを選手、スタッフ忘れることなく、次のステップに活かしてほしいと願っています。

終わりになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会はじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、イレブンの健闘ぶりをまとめましたのでお読みください。

12月20日(土)

☆1次リーグ第1試合 とちぎ帯広FC 2-0 バディサッカークラブ江東(東京都)

バディは、夏の草サッカー大会で全国256チームの頂点に立った強豪チームである。この試合で、今年のとちぎ帯広FCがどこまで通用するのかがわかる。楽しみな試合だ。

試合は試合開始早々からバディペースで進んだ。とちぎは、相手選手のアプローチの速さに戸惑いが見え、なかなかボールを相手陣内に進めることができない。守備の面でも立ち位置が悪いためにアプローチが遅れる。徐々に相手のスピードにも慣れてきた12分、9番が持ち味のスピードを生かしドリブル突破で相手DF裏に飛び出す。シュートは一度相手GKに防がれるが、こぼれ球を再び押し込み先取点を奪う。

後半に入ると、守備が修正されて(チャレンジ&カバー)ボールがつながりだす。また、相手の位置を見てスペースがある場合は積極的にボールを運ぶなどのプレーも見られた。5分、約25mのFKを10番が直接決め2-0とする。その後何度か迎えるピンチも、DF陣が粘り強い守備を見せ強豪チームに勝利する。この1勝が大きな自信となった。

☆1次リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 2-0 アスベガス生駒(奈良県)

とちぎは初戦とメンバーを数名入れ替える。そのフレッシュな選手たちを中心に、アグレッシブにボールを奪いに行く。試合の立ち上がりから主導権を握るとちぎは3分、16番が蹴ったCKのこぼれ球を9番が相手DFを冷静にかわし先制点を奪う。その後も優位に試合を進めるが追加点を奪うことはできない。相手のサイドにスペースがあるので、そのスペースを使おうと指示を出し後半戦に入る。

後半風上に立ったとちぎは、何度も相手ゴールに迫る。特に、CKはキックの質も高く、高さもあるので大きな武器となった。惜しいシュートが続いた11分、10番→14番とつなぎ、最後は9番が押し込み追加点を奪う。2-0で勝利。試合後は、DFのドリブルが相手に奪われる場面が目立ったので、判断を速くするよう確認する。

☆1次リーグ第3試合 とちぎ帯広FC 6-1 SALFAS oRs(静岡県)

この試合、引き分け以上で1位突破が決まる。相手のSALFASは、一人一人の技術が高くショートパスを多用し、1タッチ、2タッチでボールを細かくつないでくる。試合の立ち上がりは相手にボールを回されたが、ボールウォッチャーにならないように、簡単に縦パスを入れさせないように指示を出す。3分、15番→17番とつなぎ、16番が先制点を決める。更に7分、2番→17番とつなぎ、9番がシュートを決める。11分、自陣ゴール前のピンチでクリアのチャンスを逃し1点を奪われる。その後は押し込まれる。

後半に入って流れを変えるプレーが出る。3分、自陣からのロングボールを9番があきらめずに追う。相手GKが処理にもたつく間にボールを奪い、3点目を決める。守備が良くなったとちぎは中盤でボールを拾えるようになり、7分に10番のミドルシュート、同じく7分に11番がすばらしいステップからの技ありシュートを決める。更に12分、9番のシュートを17番が詰め6点目を奪う。1次リーグ3勝、1位突破だ。

ここまでの3試合でどの選手も2試合ピッチに立つ。1試合ごとに自信を持ってプレーできるようになってきたとかちイレブン。相手の組織的なサッカーに対し、個の力で打開する場面も見られた。また、コートを広く使うスピードに乗ったダイナミックなサッカーも展開している。このサッカーが1位リーグの中でも通用するのかわくわくする。

12月21日(日)

☆1位リーグ第1試合 とかち・帯広FC 1-0 横浜ジュニオール(神奈川県)

いよいよ1位リーグだ。試合開始から動きの良いとかちは、9番にボールを集め相手ゴールに迫る。惜しいシュートもあるがなかなかゴールを割ることができない。相手チームは10番のドリブルからチャンスをうかがう。相手1トップへの対応と10番へのマークを確認する。押し気味に試合を進めるとかちは12分、10番→9番とつなぎ、パスを受けた16番が倒れながらも左足でシュートを決める。その後も右サイドを中心にチャンスを作るが追加点は奪えない。ハーフタイム、相手は1トップなのでDFもサイドから積極的に攻撃に加わることに、特に、追い越すプレーを心がけるように指示を出す。

後半に入っても試合はとかちペースで進むが、前日に比べ気温が高く、また試合時間も長いということで徐々に運動量とボールを持っている選手への関わりが少なくなってきた。とかちは、選手を交代しながら打開を図るが苦しい時間が続く。17分、相手のすばらしいFKを1番が好守備で防ぐ。苦しみながらも1-0で勝利。ベスト4以上が決まる。

☆1位リーグ第2試合 とかち・帯広FC 2-1 バディーSC(神奈川県)

決勝進出をかけた2試合目は、全日本少年サッカー大会で優勝経験もある強豪バディーSCとの対戦となった。今大会も優勝候補の筆頭に挙げられていた。ここまでの4試合、14得点0失点。全くすきがない。試合開始早々から危ない場面を迎える。その攻撃をしのいだ2分、15番の突破から得たCKのこぼれ球を2番がシュートするも惜しくもバーの上。その後も相手の2列目からのタイミングの良い飛び出しに苦しむ。5分、DFの裏を取られ1対1のピンチを迎えるも1番が体を張った守備で防ぐ。10分、ボールを受けた16番のドリブルから9番へつなぎ先取点を決める。少ないチャンスをものにする頼りになるトップだ。が、前の試合で痛めた手の負傷のため交代することに。その後もピンチは続く。体を張った守備で対応するが、18分、CKから合わせられ同点となる。

得失点差では劣るため、とかちが決勝戦に進むには勝つしかない。ハーフタイムではそのことを伝え、時間帯によってはポジションやシステムの変更があることを伝える。後半に入っても、同点に追いつき余裕の出た相手チームにボールを回され苦しい時間帯が続く。GKを含めてコートを広く使い、ボールを失わない技術は相手チームでありながら賞賛の言葉しかない。勝利を信じるとかちは、残り少ない時間帯で再び9番をピッチへ送り出す。9番が入ったことで相手がやや守備的になった。DFラインが下がった。奇跡は起こった。ロスタイム直前の全員攻撃。右サイドからのスローイング、9番が相手DFを3~4人を引き連れてニアに走り込んだ。スローイングはその頭を超し、スペースのでき

たゴール前に。そこにノーマークとなった14番が走り込み落ち着いて勝ち越しゴールを決める。試合終了のホイッスルが鳴り響く。2-1で勝利。劇的な勝利、ついに決勝戦。

最後まで決してあきらめなかったとかちイレブン。組織プレーに対抗した「個の力」。

それにしてもバディは強かった。試合内容では完全に負けていた。個人技術の高さ、鍛えられたチームプレー、強いメンタリティー、お手本となるすばらしいチームだった。

☆決勝戦 とかち帯広FC 2-1 清水トレセンU-12 (静岡県)

決勝戦は、「サッカーのまち清水」地元の清水トレセンとの対戦になった。サッカーどころの静岡でも一番サッカーが盛んな地域で、サッカー文化が生活の中に根付いている地元トレセンチームとの対戦だ。夢の決勝戦だ。十勝少年サッカーの歴史が変わる瞬間だ。気づけば、十勝のベンチ裏には大勢の応援団が。アウェーの中での試合のはずなのに、まるでホームゲームのような雰囲気だ。胸が熱くなる。

試合前、あいさつが終わった後にベンチにいる選手を含めての円陣で気持ちを一つにする。キャプテン8番の意気込みと心遣いが伝わる。清水トレセンは一人一人の技術が高くしっかりとボールをつないでくる。特に、サイド攻撃は迫力があつた。4分、サイドを破られ中央でフリーになった選手につながれ1点を失う。が、1点を失った後は、守備の意識が高くなり、安定したことで徐々に攻撃する時間も増えてきた。7分、ゴール前で9番から16番につながるがシュートは惜しくも外れる。その後も惜しいFKもあつたが同点に追いつくことはできない。17分、19分には、12番がゴール前で決定機を迎えるも、相手DFのすばらしい守備に得点を奪うことができない。

ハーフタイム、チャンスは多い、後半は風上なのでセットプレーは大きなチャンスとなる、恐れることはないのでどんどん人数をかけて攻撃しようと指示を出す。

この試合、20名全員に短い時間になってもすばらしいチームとの決勝戦を経験させることを決めていた。次々にピッチに立つ選手は必死のプレーを続けた。6分、CKから同点ゴールかと思われたプレーはキーパーチャージ。前へ前へとボールを進めるとかちは、9分、約20mのFKを10番が決めて1-1に追いつく。その直後、決定的なピンチを迎えるが20番の勇気あふれる体を張った守備でゴールを許さない。ピンチの後にはチャンスあり。12分、11番の蹴ったCKを8番が頭で合わせてついに逆転する。その後のピンチもチーム全員でしのぎ試合終了。2-1の逆転勝利。初優勝。全国制覇だ。

なお、この大会の最優秀選手賞には、我チームの9番が選ばれた。

ここ数年、多くの関係者の方々のご尽力で、全国のトップレベルのチームと交流できるチャンスをいただいている。この時期に良い経験ができることは、何よりの財産となる。今後も日頃のトレーニング方法を工夫し、努力していけば、全国の強豪チームとも互角の試合ができるであろう。そして、トレセン活動の大きなねらいが個の育成であることを忘れずに、各チームの指導者の皆さんと共に十勝地区全体の底上げ図っていききたい。

参加した選手の皆さん、スタッフの皆さんご苦労さまでした。

参加選手20名へのコメント

- ① 的確なポジショニングと安定したセービングで多くのピンチを防ぎました。DFへのコーチングの質を更に高めることで、より守備力を向上させましょう。
- ② 相手のアプローチを受けてもあわてずにボールを運び、味方の選手が次の位置に入るための時間を作っていました。今後はゴールを目指すためのプレーを更に意識しましょう。
- ③ DFラインからの積極的な攻撃参加で、厚みのある攻撃を実現させていました。観る量を更に増やすことで、ボールを持ったときに良い判断ができるようになります。
- ④ 高い身体能力を活かした守備で、相手選手と互角に渡り合っていました。攻撃参加するときの関わり方を工夫することで、より効率的にゴールに迫れます。
- ⑤ DFラインの中心としてバランスやカバーを意識し、実に堅実なプレーを続けていました。インターセプトの意識を高めることで、自分の守備を攻撃につなげましょう。
- ⑥ 身体を張った守備と、前線の選手へのナイスパスが随所に見られました。守備の際は裏のケアとインターセプトの両方ができる立ち位置を取り続けることを意識しましょう。
- ⑦ どの試合でも恐れずにボールを持って、FWの選手が動き出すための時間を作っていました。ボールが来る前の観る量を増やし、ファーストコントロールの質を高めましょう。
- ⑧ 主将として見事にチームをまとめました。高さを活かしたプレーは攻守においてチームを救いました。運動量を更に増やすことで、より存在感のある選手を目指しましょう。
- ⑨ 相手から厳しいマークを受けながらも、よくボールをおさめ、シュートチャンスをしっかりとものにしていました。オフザボールの動きの質を高め、更に上を目指しましょう。
- ⑩ 素早い守備と高いシュートスキルで攻守において活躍していました。中盤の狭いスペースでも自らボールを運ぶといった「違い」を更に表現し、より怖い選手になりましょう。
- ⑪ 細かなステップとアイディア溢れるテクニックで、攻撃のアクセントとなっていました。オフザボールのときの動きの量と質を高めていくことで、テクニックが更に活きます。
- ⑫ 味方の位置をよく観て把握し、意外性溢れるパスを出していました。決勝戦の活躍もインパクト十分です。運動量と対人の強さを高めることで、ボールを持つ時間が増えます。
- ⑬ 持ち味である人に対する強さを発揮し、堅実な守備でチームに貢献していました。攻撃参加のタイミングを逃さずにチャレンジして、攻守において関わりを増やしましょう。
- ⑭ スピードに乗った縦へのドリブルと、ゴール前での嗅覚が魅力十分でした。ボールを持つ前、持っているときに「観る」習慣を身につけ、良い判断ができるようにしましょう。
- ⑮ スペースに向かうドリブルや、狙いすましたセカンドディフェンスで活躍していました。攻守において積極的なチャレンジを意識することで、より存在感のある選手になります。
- ⑯ 対人の強さとゴールへの執念が光りました。たくさんのポジションを経験したことも大きな成果です。ボールと一緒にプレーする習慣をつけることで、更に選択肢が増えます。
- ⑰ 豊富な運動量を活かした中盤からの積極的な攻撃参加が、攻撃に厚みを持たせていました。中盤からでもゴールを意識したプレーが増えると、相手に与える怖さが増します。
- ⑱ ボールを持ったときに積極的に仕掛ける姿勢が随所に見られました。相手ボールのときに良い立ち位置をとれるように、ボールや相手、味方の状況を常に把握しましょう。

- ①9 前線での献身的なファーストディフェンスで、相手の選択肢を減らすことに成功していました。相手からボールを奪うために、1対1の強さを高めましょう。
- ②0 決勝戦では数回あった1対1のピンチを見事な対応でストップしました。ボールを持ったときに落ちついて良い状況の味方を探すことで、良いビルドアップができます。

(文責 喜多 翼)